



Library NEWS

～図書館だより～



令和2年度 晃陽中学校図書館

だんだんと秋が深まり、朝晩はだいぶ寒くなってきました。冷たい北風が吹くころ、ふっと暖くなる日のことを「小春日和」といいます。そんな日に、お気に入りの1冊をじっくりと読んでみたいですね。

おはなし給食

物語とコラボした給食のメニューが出ました。篠井小と富屋小でも同じメニューでした。



『チキンライスがいく。』から
オムライス

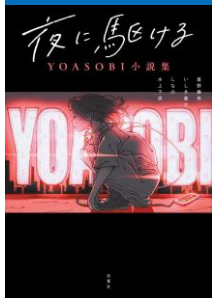


『アーヤと魔女』から
シェパースパイ



『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』
からマドレーヌ

新着図書





晃陽中学校図書館にある



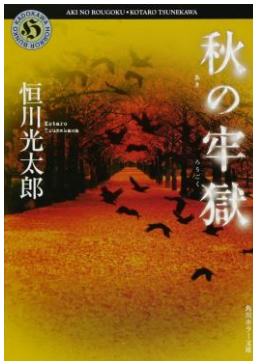
..... おすすめの本

2020.11



「ただいま神様当番」 青山 美智子 著 宝島社 300 p

ある朝、目を覚ますと手首から腕にかけて「神様当番」と太くて大きな文字が書かれていた。突如目の前に現れた「神様」を名乗るおじいさんの願いを叶えないと、その文字は消えない。「お当番さん、わしを楽しませて。」神様を満足させることができればお当番は終わる。神様のお願い事を叶えようとするうちに、自分の本当の気持ちに気付いていく。奇想天外な神様に振り回されていたはずが、いつのまにか主人公たちの悩みも解決している。笑えて泣ける連作短編集。



「秋の牢獄」 恒川 光太郎 著 角川書店 217 p

11月7日の水曜日。女子大生の藍(あい)は、秋のその1日を、何度も繰り返している。毎日同じ講義、毎日同じ会話をする友人。朝になれば全てがリセットされ、再び11月7日が始まる。この繰り返しの日々。閉じ込められたリプレイヤーたちは11月8日にたどり着いたのだろうか。終わりは訪れるのだろうか。リピートストーリー。何かに囚われた主人公の、3つの短編集。3つともただ怖いだけではなく、不思議で幻想的な話。



「まんがでわかるカミュ『ペスト』」 小川 仁志 監修 宝島社 159 p

カミュの『ペスト (La Peste)』をわかりやすく解説している本。新型コロナウイルスの世界的拡大によって、現在もいつもとは違う日常だが、それをまるで予言しているかのような小説『ペスト』。疫病の終焉によって生まれた世界についても描かれており、コロナ禍を経験している私たちが、何を見て、何に気づき、何を思い、何を志向するべきか、そのヒントが書かれている。感染症についても学べる本。



「〈錯視〉だまされる脳」 新井 仁之 著 ネルヴァ書房 87 p

ふしぎな錯視の世界を体験できる。錯視の歴史、錯視の技、錯視の科学。パルテノン神殿の柱の不思議から、パソコン画面上の文字列が傾いて見える不思議まで。クラクラしてしまうが、驚きの連続で面白い。最先端の研究など、目の錯覚で起こる不思議体験がギュッと詰め込まれた1冊。

..... 予約できます。